

V400Xの新機能

[SDロガー4]

2020年10月6日 (株)データ・テクノ

2020年9月25日 (株)データ・テクノ

SDロガー4、V400Xは、つぎの新機能が搭載されます。

- ・日付時刻待ち
- ・長いファイル名のサポート
- ・ヘキサダンプ機能
- ・フレーム検出機能
- ・カードからの時刻設定
- ・バージョン取得機能

また、つぎの機能に一部変更があります。

- ・日付時刻に伴うファイル名
- ・通信エラー自動クリア

SDロガー4は、弊社ホームページからアップデートモジュールをダウンロードしていただき、お客様のお手元でアップデートしていただけます。

■■日付時刻待ち

スクリプトに日付時刻待ち(WAIT CLOCK)文が追加されました。
今までのように時間間隔ではなく、特定の日付時刻を待つことが、できるようになりました。
指定時刻にログを開始、停止することや、ログファイルを変更することが、できるようになりました。

詳細は「日付時刻待ち(X520032)」をご覧ください。

■■長いファイル名のサポート

長いファイル名が使えるようになります。
スクリプト版でファイル名に日付時刻を選んだ場合は、「YYMMDD-HHNNSS.LOG」形式のファイル名が付けられます。
コマンド版では、120 文字までのファイル名が扱えます。

詳細は「長いファイル名(X520033)」をご覧ください。

■■ヘキサダンプ機能

ロギングするデータを16進数文字に変換する機能が加わりました。
バイナリを含むデータをテキストとして見ても、文字化けが起り良く分かりません。
ヘキサダンプモードでロギングすれば、バイナリーデータでも、テキストとして見る事が出来ます。

詳細は「ヘキサダンプモード(X520034)」をご覧ください。

■■フレーム検出機能

フレームの終端を検出する機能が加わりました。
受信データの間隔があくことでフレームの終端を検出し、ログデータにマーキングします。
Modbus RTU ではフレームの終端コードが無く、ロギングされたデータからではフレームの終端が見つからなくなります。
そのような場合この機能を用いることで、フレームの終端を見つけることが出来ます。

詳細は「フレーム検出機能(X520035)」をご覧ください。

■■カードからの時刻設定

パソコンを接続しなくてもSDカードに時刻を書いておけば、時刻設定できる機能が加わりました。

詳細は「カードからの時刻設定(X520036)」をご覧ください。

■■バージョン取得機能

通信においてバージョンや、搭載されている機能を取得する機能が追加されました。

今後、設定変更ソフト(DTMCHost)におけるコンフィギュレーション設定において、バージョンの違いによってより適切なユーザインターフェースを提供できます。

■■日付時刻に伴うファイル名(仕様変更)

※RTCのバックアップ電池が消耗していた場合、日付時刻によるファイル名が指定されていても、昇順によるファイル名になります。

■■通信エラーの自動クリア(仕様変更)

※ログデータの欠落を見逃さなくするために、受信バッファオーバーフローは、通信エラー自動クリアの設定になっていても、クリアされなくなりました。